

## 美崎会グループのご紹介



### 国分中央病院

〒899-4332 鹿児島県霧島市  
国分中央1丁目25番70号

TEL.0995-45-3085



### サービス付き高齢者向け住宅 メディカーサ国分中央

〒899-4332 鹿児島県霧島市  
国分中央1丁目25番51号

TEL.0995-73-7111



### 地域密着型特別養護老人ホーム ソウエルこくぶちゅうおう

〒899-4332 鹿児島県霧島市  
国分中央3丁目12番29号

TEL.0995-73-8300

美崎会グループのWebサイトは下記よりご覧ください

<http://www.misakikai.or.jp/> 美崎会 検索



## 開放型登録医院の紹介

医療法人美崎会 国分中央病院では地域の医療機関との連携を生かし、患者さまへ、さらに快適な医療サービスの提供を目指しています。

### 【国分】

みみ・はな・のどとクリニック  
梶原内科  
原口耳鼻咽喉科  
渡辺眼科クリニック  
江口整形外科  
うえぞの内科クリニック  
帖佐クリニック  
いちち眼科  
原口内科消化器科  
青葉クリニック  
三輪クリニック

とくしげ耳鼻咽喉科  
プライマリ・ケアむろ内科  
かのう医院  
はやし内科クリニック  
【隼人町】  
島田泌尿器科医院  
吉満内科クリニック  
整形外科酒匂クリニック  
はやと整形外科  
隼人クリニック  
山下内科クリニック  
森クリニック呼吸器科・内科

永田医院  
吉玉リウマチ・内科クリニック  
八反内内科  
【その他のエリア】  
八木クリニック（福山町）  
伊東内科クリニック（横川町）  
佐藤医院（溝辺町）  
壺岐医院（溝辺町）  
竹田医院（霧島町）  
春田医院（牧園町）  
ひらしまクリニック（湧水町）

編集 / 医療法人 美崎会 国分中央病院 広報委員会 発行日 / 令和3年〇月〇日  
〒899-4332 鹿児島県霧島市国分中央1丁目25-70 TEL.0995-45-3085 FAX.0995-45-3088



# MISAKI

KOKUBU CENTRAL HOSPITAL NEWS

# vol.8

霧島市民に必要とされる施設  
美崎会 活動 情報誌



## P.2 吉満内科クリニック 吉満先生インタビュー [高齢者在宅救急について]



## P.6 ブドウ糖スパイクを 起こしにくくするための 新たな取り組み



## P.5 訪問リハビリ テーションについて のご案内

**FREE**  
ご自由にお取りください



吉満内科クリニック  
院長 吉満 彰先生

# 吉満内科 クリニック

院長 吉満 彰先生

## インタビュー



高齢者在宅救急担当  
救急救命士 木佐木 勝

**【木佐木】** 本日はお忙しい中、時間をお取りいただきありがとうございます。国分中央病院では昨年8月から高齢者在宅救急を開設して8か月が過ぎようとしています。現在、出動件数は総計20件とまだ少なく、まだまだ認知度は低いのですが、吉満先生に高齢者在宅救急を利用された感想をお伺いし、又、御助言を頂けたら今後の地域の高齢者在宅救急の普及啓発に生かしていきたいと思ひます。

**【吉満先生】** 私も今まで7回利用させて頂きました。まず有難いのが高齢者在宅救急用の直通電話です。直接担当職員と話ができ、迅速に対応して頂き、特定看護師の処置を受けながら、緊急走行で病院に収容してもらい本当に有難いです。

**【木佐木】** 先生ありがとうございます。国分中央病院の高齢者在宅救急車は専用電話で年齢、性別、主訴と出動場所をお聞きし、直ぐに出動できる体制を取り、現場到着後、観察・処置を行い、患者情報を病院に連絡と、迅速に対応するのが当院の高齢者在宅救急の利点だと考えております。

**【吉満先生】** その通りですね。今までは2ステップ①(患者の容体を診て、収容病院をあたる)②(消防に救急要請→搬送)を要したことが高齢者在宅救急では1ステップで済み、救急対応の垣根が低くなり、また、高齢者在宅救急は在宅を診ている立場から言うと、患者さんの自宅に出動して、病院に迅速に搬送してもらい、本当に助かります。

この前要請した事例は、オーバートリアージだったとは思いますが、施設のデイケアを利用されていた98才女性が意識消失し病院救急車を要請しました。直ぐに来ていただき病院収容時には意識も回復し、検査でも異常がみられず自宅に帰られました。今も元気にデイケアに通われています。早めの要請と病院救急車の迅速な対応で家族も安心した症例ではないかと思ひます。

**【木佐木】** 吉満先生、私たちも患者さんが今も元気に過ごされていると聞き、高齢者在宅救急の重要性とやりがいを感じ、とてもうれしく思ひます。高齢者在宅救急ではオーバートリアージは何も問題はありませぬ。むしろアンダートリアージは患者さんの為には良くありませんので、容態の悪い患者さんがいらっしやいましたら、ご遠慮なく要請してください。よろしくお願ひいたします。今後に向けて改善点等ありましたら教えていただきたいです。

**【吉満先生】** 高齢者在宅救急が軌道に乗るまではまだまだ時間はかかると思ひますが、今後できましたら24時間365日を目標にして体制を取っていただきたいと思ひます。そして、私も地域の中核病院に勤務した経験がありますが、開業医の先生方は17時~18時前後の患者さんの対応に迷われて、搬送された側の病院も対応スタッフの確保に苦慮します。高齢者在宅救急の対応で少しでも早い搬送をお願いできればと思ひます。夕方から夜間帯の対応を検討して頂ければ助かります。

**【木佐木】** 吉満先生のご指摘された対応時間のスライド勤務も検討させていただきます。

**【吉満先生】** 今後は単体で運営されている訪問看護ステーションとの連携も視野にいれて対応してはいかがでしょうか。それと、先ほどもお話ししましたが、オーバートリアージで要請することも多いかと思ひますが、今後は要請した在宅診療医と高齢者救急が同時現場に赴き、協力し合えればより早い医療提供ができ、良い地域医療体制になるのではないのでしょうか。

**【木佐木】** 吉満先生ありがとうございます。今後も高齢者在宅救急は在宅医の先生方のご協力を頂き、国分中央病院の役割でもあります早期リハビリに取り組み、患者様を一日でも早く日常に帰す医療の提供にも貢献できるものと思ひます。今後とも高齢者在宅救急にご助言、ご協力を宜しくお願ひいたします。本日は長い時間ありがとうございました。



吉満内科クリニック [内科・呼吸器科・放射線科]  
霧島市隼人町松永3306-1/電話 0995-42-8880

# 高|齡|者|在|宅|救|急

令和2年8月に病院救急車の運用を始めて10か月が過ぎました。近隣のクリニックや施設からの救急要請が少しずつ増え始め、当院の救急車の認知度もあがってきたと感じています。クリニックや施設への出動だけでなく、最近では在宅療養されている方のご自宅への出動も数件経験いたしております。

## 高齢者におこりがちな...

- 慢性心不全、慢性呼吸不全の急性増悪
- 肺炎や尿路感染。胃腸炎等の感染症
- 血糖値の急上昇や低血糖発作
- 食欲低下が続いている
- 日常生活動作が低下してきた など



性別・年齢・主訴だけで、すぐに出動させて頂きます。  
詳しくは地域連携室、河本(かわもと)・木佐木(きさき)までお問い合わせ下さい。

# 栄 養 通 信

栄養管理室  
管理栄養士  
柏木 裕香



ブドウ糖スパイクを起こしにくくするための  
当院の新たな取り組み

## 当院では小麦粉の代わりにおから粉を使用しています！

おからとは、大豆から豆腐を製造する過程で豆乳を絞った際に残るかすのことです。その残ったかすを乾燥させて粉状にしたものがおから粉になります。このおから粉を当院では、揚げ物の衣やサラダに使用しています。

### おから粉の特徴

#### ●血糖の上昇を抑制する！

おから粉は小麦粉に比べて糖質の含有量が少なく食物繊維の含有量が多いため、血糖の上昇を抑えることができます。

#### ●たんぱく質を効率よく摂ることができる！

#### ●ダイエットに向いている！

おから粉は食事のかさを増やし、食物繊維で満腹感を得られつつ腸内環境も整えるためダイエットに向いています。

### おから粉と小麦粉の 栄養成分を比較すると…

(100g 当たり)

	おから粉	小麦粉
エネルギー	332kcal	350kcal
たんぱく質	21.5g	9.0g
糖 質	6.6g	72.5g
食物繊維	48.0g	2.5g

※商品によって成分が異なる場合があります

おから粉は小麦粉よりたんぱく質が豊富で、糖質が少なく食物繊維が多いことがわかります！

### おから粉を使用した食事

小麦粉の代わりにおから粉を衣として使用することで、見た目も味も変わることなく血糖上昇を抑えることができます！揚げ物の衣をおから粉にすることで楽しみながら糖質制限をしてみましょう！



衣におから粉を使用した鮭の南部焼き



衣に小麦粉を使用した鮭の南部焼き

# 訪問リハビリ テーション

リハビリ  
テーション室  
三上 雅史  
室長代理



当院、訪問リハビリでは療養病棟と地域包括病棟からの退院後をサポートする形でセラピスト（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）による在宅でもリハビリテーションを受けられる体制を整えています。それとともに、地域住民からの依頼による介護保険を利用した訪問リハビリサービスも実施しております。

### 退院後サポート介護保険利用

### 通所リハビリテーション・ 訪問リハビリテーション

訪問リハビリを開始して令和3年7月で8年になりますが、訪問リハビリテーションの終了が、社会に資する形で次のステージに繋がる場合をいわゆる卒業と表現し、出来るだけ利用者が在宅での生活を続けられるようにと、関係職種・事業所との連携を図って参りました。現在は、昨今のコロナウイルス感染予防対策もあり、地域の皆様が今まで行く事が出来ていたデイケア・デイサービス等の交流の場が制限され、閉じこもりによる不活発な状態が続いているように思われます。

今後も退院後の早期の在宅リハビリテーションの提供により在宅生活での不安を軽減し、自立支援を意識したサービス提供を行うとともに、閉じこもりによる不活発な状況を改善し、在宅生活を出来るだけ継続したいという要望にも応えられるよう、訪問リハビリテーションサービスならではの取り組みを実施して参ります。

### CASE 1

自宅であるもの（新聞紙など）を利用してお家で出来る体操の指導も行っています。



### CASE 2

趣味の魚釣りで使用していたクッションゴムをアレンジして、自宅での肩関節腱板強化自主練習を行っています。訪問リハビリ時に固定の状態と運動強度をアドバイスしています。本人より『時間はかかるけど以前のような激痛が減っているので、これからも続けてもっと良くなりたいと頑張っています』との事です。



### CASE 3

在宅酸素療法を施行されている利用者さんです。在宅生活中の酸素供給の状態や移動時の携帯型酸素ボンベの残量チェックやボンベの交換などを一緒に行い、呼吸機能を向上できるように姿勢の調整や体操を行っています。



### CASE 4

自宅や訪問できる施設へ赴き、一人で歩く練習が不安な方と、歩行練習を行うこともあります。麻痺がある方でも長下肢装具と杖を使用して、屋外歩行を行っています。耐久性向上、気分転換にも繋がり、施設生活でも閉じこもりにならず、楽しんで過ごすお手伝いが出来ております。



## 特定看護師の活動のご紹介

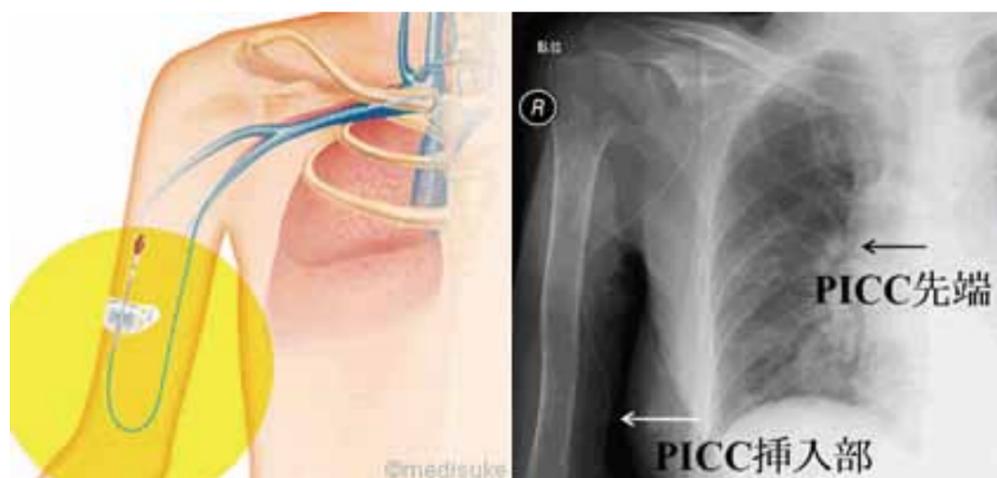
今回は、当院の特定看護師が行っている特定行為として、末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC）の挿入をご紹介します。

経口摂取や経腸栄養ができない場合や末梢血管（静脈）が確保できない場合、そして末梢血管からの投与により有害事項を発生することが予測される薬剤を投与する場合などがPICC挿入の適応となります。

これまでは、上記適応の患者さんがいらっしゃる場合は、医師により鎖骨下や内頸静脈から中心静脈カテーテル（CV）を挿入していましたが、PICCは特定看護師の手技により、上腕の静脈からカテーテルを挿入し、CVと同様の薬剤投与ができ、患者さんの負担が軽減された処置であります。

当院では毎月コンスタントにPICCの対象となる患者さんがおられます。

私たち特定看護師は、患者さんに少しでも安全・安楽にPICC挿入が行えるように、日々対応しております。



# 成人力

「病院長」福永秀敏  
Hidetoshi Fukunaga

「成人力」とは「知識ではなく、課題を見つけ考える力や問題解決能力など、生きていく総合的な力」と定義されている。人間としての成熟度に関係する事柄のように思われるが、この混迷する時代、もっとも必要とされる能力ではないだろうか。

私がアメリカに留学時の指導者のエンゲル先生は「Problem orientated」という言葉をよく使われていた。何か新しいことを試みようとする様々な困難な問題に直面する。そこでひるむことなく問題の解決のために正面から立ち向かうことが重要であるという意味である。また雑賀氏（元三井物産代表取締役）は「一言で言うと、人のせいにしないということではないだろうか」と、そして「つたなくても自分の経験や体験から周囲を巻き込みながら、組織としての最適の答えを見つける事のできる人と思う」と語っている。

日経特集で「問われる成人力」というテーマのシンポジウムで、作家の浅田次郎さんは「現代人は知識は豊富でも、いざというときの生きていく総合的な力、すなわち成人力が欠如しているかもしれない」と述べている。

浅田さんは「壬生義士伝」など江戸時代をテーマにした小説をいくつか書いているが、そこで気づいた現代との違いを、武士は15歳で元服し、40代で定年となり、その後は優雅な隠居生活が待っており、この時代に素晴らしい江戸文化を築いた。現代と比較すると、20年以上も早く人生を歩んだことになり、否応が上にも生きていく力を若い時代に習得したことになる。

同時に、現役をリタイアした武士たちは、全国各地の寺子屋の先生を務めたことが多かった。藤沢周平の著わした「三屋清左衛門残日録」では、前藩主の用心まで務めた主人公が隠居前には悠々自適な隠居生活を考えていたが、実際はそうではなくて寂寥とした感があるものと描いている。そして「よろず相談所」的役割でさまざまな難題を解決していく中で、自らの生きがいも獲得していく筋書きとなっている。

江戸末期に日本を訪れた外国人が驚いたことは、日本人の識字率の高さ（90%を超えていた）だったと書かれている。その大きな理由が全国各地に設けられた寺子屋であり、退役した武士たちが半ばボランティアとして子どもたちに教育していたからに他ならない。びっくりするのは寺子屋の数で、現在の日本の小学校の数に等しかったという。

浅田さんの分析では、このようなことが可能になったのは、日本が島国政策をとり外国からの侵略に備える必要がなかったこと、国土の大半が山で占められ人の住める場所は限られていたためだとしている。その結果、現在の日本列島と同様に海の近くの平野部に集中して人が住んでいたため、このような教育が可能だったのではないかと分析している。

「教養度が高かった明治時代に比べると、近ごろ日本人が少しずつ子どもっぽくなった気がする。若返りというのは、いい方を変えればバカになるということでもある」と結論している。